

ZENBUTSU

全仏



No.
550

仏暦2552年 6月
[2009年]



菩提樹にたくさんの添え木が奉納され、その前で祈念する沙弥（ランパーン、北タイ） 撮影 田村 仁氏

目次

——— 論点・視点「宗教法人を取り巻く環境変化 その3」 塚崎智志
加盟団体をゆく 第26回 仏教情報センター
「こども教育仏壇のすすめ」 岐阜県仏教会
グローバル・アピール2009
民主党仏教議員連盟総会に講師派遣
宗教教育推進委員会
WFB本部より浅草寺に仏像贈呈される

論点・視点

宗教法人を取り巻く環境変化 その3

野村證券(株) 法人企画部 塚寄 智志

前号では、「宗教的側面」における地域コミュニティとの関係、宗教活動、宗教者としての役割、背景にある人口動態について書いた。

今号では、「世俗的側面」としての宗教法人運営の重要性について触れてみたい。宗教法人運営というと宗教者としての宗教活動とは関係無いと思われる方も多いように思われる。しかしながら現実的には宗教法人としての事務運営の実務を見ると財産目録は備え付けなければならない、法人によっては収支計算書を備え付けなければならない。但し、これはあくまでも宗教法人としての「宗教的側面」を支えるために必要なものであって「世俗的側面」を重視することが宗教者としての本質ではないのは当然のことである。しかし、ご承知の通り社会情勢の変化、世の中の仕組みの変化等の影響は一般の事業法人同様に宗教法人にも大きく及んでおり、またそれに対する適切な対応も求められている。

次項では法人運営上必要な要素について詳細を見ていく。

「法人運営」

健全性を持った形で宗教法人としての法人運営を遂行していくためには、組織が機能的に統制されていることは重要な要素である。寺院の規模により組織の運営、取り回しの部分での多少の違いはあると思うが、基本的な法人運営という面では規模による違いはないと思われる。多く的一般寺院は代表役員、責任役員、一族の方々だけで運営されている法人が多いようだが、そういった体制においても組織が機能的及び適正に統制されているか検証していくことは寺院運営上必要なことである。宗教法人は公益法人という存在である以上、冒頭述べたように法人組織として運営していく場合、健全性を担保できるかという面ではより誠実な対応が求められる。

最近よく報道で透明性、説明責任

という言葉聞くが、これは事業法人だけの問題ではなく宗教法人としての課題でもある。宗教法人運営においてどれだけの透明性を持って管理運営できているのか再度検証していく必要があると思われる。運営の健全性から見ると宗教法人として内部監査体制を構築していることは当然のことであり、中でも規模の大きな法人であれば第三者による外部からの監査体制をも構築強化していくことも必要であると言える。このように情報を開示していくことは、今まで閉鎖的な印象であった宗教法人運営の透明性を確保することになり、宗教法人を取り巻くコミュニティからの信用度は上昇し寺院運営を支える源泉となるであろう。

宗教法人の方々が思っているよりも外部から見ると寺院の印象は閉鎖的で一般の常識と乖離していると思われる。そのギャップを埋めるためには極力透明性を持った法人運営を心掛ける必要がある。昔のようにお互いのことを深く知っているといる状況ではなく、表面的な言わば形骸化した付き合いが多くなっている中では、今まで以上に世の中から信頼を得ていくために寺院自身も自ら変化していくことが求められる。

例えば、以前と違い今の檀信徒・

門徒の方々は、「お布施」についてもサービスの対価として認識されていることが多く、「布施行」などという認識はほとんど無いと思われる。そうであれば寺院自身が説明責任の重要性についても認識を持つべきであり、その上で寺院を支えている檀信徒・門徒の方々に対してきちんとした説明責任を果たしていくことは今後の寺院運営上最低限必要な要素となってくると思われる。

宗教法人内部における課題と併せて、取り巻くコミュニティとの関係を考えた場合においても、前号で書いたように寺院と檀家との関係が希薄になっていると言われている現状を見てみると寺院運営上の一連の流れ、決まりごと・活動に関して関係者及び地域コミュニティの方々に理解してもらうことは、地域コミュニティとの関係構築・強化という側面から見ても今後の寺院運営にとって非常に重要であると思われる。

以上、述べたように健全性を持った形で宗教法人としての法人運営を遂行していくことは、結果として檀信徒・門徒の方々を含む地域コミュニティとの関係を構築・強化していくために必要な要素であり、核となる宗教的側面を守っていくために必要な世俗的側面の一部であることを

強く認識すべきであろう。

「リスクマネジメント」

前項では世俗的側面における法人運営の健全性に関して述べたが、今項では宗教法人が抱える課題でありながら潜在的要素が強いため認識し辛いリスクマネジメント（不確実性事象への対応）に関して触れてみたい。

不確実性事象というと分かり辛いが、今までは問題にならなかつた潜在的な事象（リスク）が社会情勢、自然環境、経済環境等の大きな変化に伴い顕在化してきておりその対応が急務となっている。では宗教法人においてどういったリスクが考えられるであろうか？例えば、自然環境の変化に伴い起こっているのが風水雪災、落雷、日本という地域特性での地震、温暖化の影響と思われる建築物の損傷・老朽化がある。また、社会情勢の変化の影響としては、最近多い盗難、コンピューターネットワーク障害・犯罪、交通事故等が考えられる。また、人的要因におけるリスクとしては、施設の欠陥、管理不適、境内地における参詣・参拝者等の怪我、葬儀・法事での食中毒、職員等の不正・犯罪が考えられる。

さらに、直近では経済環境の急激な変化が寺院を支える経済基盤に多

大な影響を与えている。景気動向、金利・為替、原油価格動向等は宗教法人にとっても他人事ではなく直接的に影響が出てくるリスクの一つであり、知識面、実務面においても準備しておくことは重要となつてきている。

また、宗教法人が保有している個人情報管理も大きなリスクであると思われる。個人情報保護法上の運営は宗教団体については適用除外となつているが、実際に宗教法人が保有している個人情報には過去帳を含む重要な情報が多い。宗教法人によっては情報の整理はしているが管理は出来ない法人が多いように思われる。パソコン上の管理であつても、先程述べたようにコンピューターネットワーク障害・犯罪が横行している現状を鑑みるとセキュリティの強化は必須となつている。

こういった諸々の不確実性事象（リスク）に対して適正な準備対応を図ることは直接的に寺院を守ることに併せて、結果的には檀信徒・門徒の方々の負担または不安を軽減し、よりよい関係を構築・強化することが出来るものと思われる。

「戦略的財務基盤構築」

宗教法人としての永続性を担保す

るために必要な要素として、様々な活動の源泉となる経済基盤を戦略的に構築・強化していくことが挙げられる。今まで述べてきた人口動態、宗教観の変化、リスクマネジメント等の要因により宗教法人としての財務状況の内容が大きく変化することが予想される。

その中で法人としての健全性を維持し、尚且つ宗教法人としての本質を守りつつ永続性を担保するためには検討すべき課題が多い。コスト管理は当然であるが、今一度法人として経済的基盤という観点からも運営のあり方を見直してみる必要があるのではないだろうか。

「期待」

四月号から宗教者・宗教法人としての本質が問われていると述べ、その中で宗教者が持つ「宗教的側面」と「世俗的側面」の二面性を理解し、「聖」（宗教的側面）の部分を守るために必要な「俗」（世俗的側面）の部分に柔軟に対応する必要があると書いた。宗教者・宗教法人が抱えている課題は前述した以上に多いと思われるが、実際にどのような課題があるのか独自に検証していただき対応を検討していく必要があるだろう。宗教者・宗教法人を取り巻

く環境の急激な変化に対応できないと宗教者としての本質を後世に継承していくことは出来ない。

最近の混迷の時代において人間の本質的価値を追求するという根本的な課題に対する答えを宗教者に求められることが多くなつている中で、今一度宗教者の方々が担われている責任の重さと宗教者にしかできない事を認識していただき、宗教的側面および世俗的側面への対応を図られることを期待する。

※ 野村證券では、法人企画部という専門の部署を設け、公共・公益法人のお客様のさまざまな課題の解決に向け対応しております。全国の部支店と法人企画部が連携し、社内やグループ各社・外部専門家と連携を図りながら、皆様にとって最適な問題解決提言の開発とご提供を目指しております。

塚崎 智志（つかざき さとし）
一九六八年 福岡県生まれ
野村證券（株）法人企画部 公益法人課 課長
宗教法人セクター担当として、宗教法人運営の本質的課題の解決を図るべく宗派を問わず全国飛び回っている。また、宗教法人向けに様々な研修、勉強会、セミナーの講師も務める。

加盟団体をゆく

《第二十六回》仏教情報センター

今回は、仏教情報センターを訪ね、安孫子虔悦理事長及び互井観章事務局長にお話を伺いました。仏教情報センターは、昭和五十八年のテレフォン相談開設以来、平成十一年に相談件数が十万件を突破。取材当日も相談の電話が鳴る中、取材に応じて頂きました。



安孫子虔悦理事長(右)
互井観章事務局長(左)

―貴団体の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

仏教情報センターは「精神のよるところとしての仏教を現代社会に生かす」という目的のもと、昭和五十八年に首都圏在住の伝統仏教九宗派の有志僧侶により設立されました。

設立当時より、事業の中心として、暮らしの中で直面した問題について電話相談を無料にて行う『仏教テレフォン相談』を行っております。百余名の僧侶がボランティアにて相談員として参加し、平日十時から十二時、十三時から十六時、曜日ごとに担当僧侶及び宗派を定め相談を受け付けており、年間四千件以上の相談が寄せられます。

他の事業としては、相談員のお寺を会場としてお借りし、「仏教ホスピスの会」を毎月第四木曜日に開催しております。毎月様々な分野の方を講師としてお招きし、講話及び語り合いの場を提供させ

て頂いております。

関東周辺の名刹・古刹を参拝旅行する「仏教ライフ・サークルの集い」や、首都圏内の由緒寺院境内での街頭相談を行う「仏教街頭相談」や講演会・講座の開催も行ってまいります。また、各種団体への講師の派遣も行っております。講師派遣は通算百回を超える回数となっております。

こうした活動の運営は、当センターの会員によって運営されています。より活発な活動の為には新規会員の募集を常時行い、既に会員になって頂いている方々へは活動内容をホームページ・会報等により広報活動の充実に勤めております。

設立当初より一貫したテーマとして、人々の「仏教離れ」に歯止めをかけた、という思いがあります。

若手僧侶が宗派を問わず、電話で生の声を受けて相談にあたっていきます。本来は菩提寺に相談して頂くべき相談が寄せられる事もあります。

しかし、様々な事情から相談で

きない方から相談を受けたり、時には既存の宗派・団体に対する痛烈な批判を電話により受ける事もあります。そうした生の声を浴びる事が僧侶としての資質を高める事に繋がってゆくと考えています。

設立当初は、電話相談に寄せられる相談は仏事に関するものがほとんどでしたが、現在は人生相談、心や命に関する相談が非常に増えてまいります。世間には様々な電話相談がありますが、何か一つの分野に特化している事がほとんどです。そうした中で、宗教から一般の事情まで含めた総合相談を二十年以上に渡って受け付けている機関は非常に珍しく、そこが当センターの強みだと思います。

今後は、より社会のニーズに合わせるべく、新聞等メディアに掲載して頂けるよう働きかけを行うこと、出版物の広報を進めること、民間相談機関連絡協議会等の他の相談機関との連携をより深めて行く事等を考えてまいります。

―今後の仏教界の在り方について

て、指針をお聞かせ下さい。

仏教を世間にアピールする為
に、「お寺を開放すべき」という
論調をよく耳にします。一般の方
にお寺に親しんで頂くのは、必要
ですしとても素晴らしい事と思っ
ます。

しかし、一步踏み込んで、お寺
の開放を実行しようとした場合、
様々な問題に直面するケースも
多々あります。一つはセキュリティ
の問題です。

当センターの相談員も、電話相
談にきている間は自分のお寺を留
守にしてセンターに来ています。
住職が留守、もしくはいくつかの
お寺を兼務している場合などは、
留守中のお寺をどれだけ開放でき
るか？という問題があります。

この問題を解決する為には、住
職が不在でもお寺が開放できるよ
うな体勢の構築が不可欠です。お
寺は信者・檀家さんの協力によつ
て支えられており、仏の教えを伝
えるという僧侶本来の責務を念頭
に置いて、地域の方々とコミュニ
ケーションを積極的に図り、そう
した体勢を構築していくことが、

開かれたお寺の第一歩に繋がるの
ではないでしょうか。

―昨今の様々な社会問題につい
て、感じていらつしやる思いをお
聞かせ下さい。

近年、亡くなる方への思いが薄
らいでいる、と良く言われるよう
になりました。葬儀に代表される
死者の弔いは、簡素にすませよ
う、という方向に社会全体が進ん
でいっているように感じます。

しかし、死に際した儀式は簡素
でよい、もしくは不要と人々は納
得しているのでしょうか。本当に
納得しているならば、当センター
に相談の電話はかかってこないの
ではないかと思えます。社会的に
はそういう方向で進んでいます
が、納得できないから当センター
に電話がかかってきたり、「おく
りびと」のような映画が大ヒット
したりすると考えています。

昨今こんなにも人々が精神的に
不安定になり、凶悪事件等が多発
し、命が軽々しく扱われる原因の
一端は、人間生きていく間が全て
で死んだらもう何も意味がない、

という発想の方が増えてしまった
ためと思えます。死に対する儀礼
が不安定になってしまえば、死に
対する不安もより一層増大し、精
神的にも不安定になり社会に振り
回されてしまうでしょう。

そうした人々を支えてゆくのは
宗教者の役割と思えます。またそ
の活動をどう社会にフィードバッ
クしていくかは、大いに今後考え
ていく必要があるのではないかと
感じています。

―(財)全日本仏教会へのご要望や
ご意見がありましたらお聞かせ下
さい。

全日本仏教会の理念である「全
一仏教運動」を進めていくにあた
って、最も重要な事は僧侶一人ひ
とりが変わっていくことではない
かと思えます。底辺が変わらない
と何も変わらない。たとえば全日
本仏教会だけが「全一仏教運動」
を意識し、意識改革を行ったとし
ても何も変わらないと思えます。

その為には、若手僧侶の育成が
重要であり、他宗派との交流の中
には大きなチャンスがあると思っ

ます。

各宗派の宗団の中においては、
若い僧侶は裏方担当の場合が多
く、活躍の場がある程度限られて
しまう事が多いように感じます。

他宗派の方々と共に、当センター
や全日本仏教会、全日本仏教青年
会をはじめとした青年会のような
な、自分自身を鏡に映し研鑽でき
る場、対社会のトレーニングを行
えるような場をうまく使って頂き
たいと思えます。

ボランティア活動を通じて、人
間としてのバランス感覚を養う事
は、僧侶としての資質を高め、各
寺院での活動にも良い影響が出る
と確信しております。

全日本仏教会には今後も、人材
育成や各宗派の交流の為の機会や
場所を提供して頂けたらと思いま
す。

(談)

仏教情報センターホームページ
<http://www.2u.biglobe.ne.jp/~bukkyo/>

こども教育仏壇のすすめ

岐阜県仏教会常任顧問・全日本仏教会理事 加納 博司

岐阜県仏教会では、仏壇を通じて特に幼少期の宗教情操教育を目的とした「教育仏壇」の普及を推進しております。この度、加納博司常任顧問（本会理事）よりこの取り組みについてご寄稿を頂きました。

みました。お寺の日曜学校も集まらなくなり、東京では直葬が三分の一にもなり、法事も一周忌まで、と聞きます。凶悪犯罪が増え、その結果、子が親を殺す、親が子を殺す、まさに家庭教育の崩壊です。それに比べ

昔は家族そろってお仏壇にお参りし、結婚式も各家庭のお仏壇の前で挙式しました。

頂いたものもお仏壇に供えてから家族で分けあいました。敗戦後は親子別世帯が増え、お仏壇は祖父母がお守りをし、夫婦と子供達はお参り、ご先祖の事、子供の躰は次第に忘れ去られ、お参り、お経を知らない子が増え、ご先祖、昔話、宗祖聖人の事などを聞かせる人もなくなり、親子の断絶が進

●動物たちは命がけで子を育てる

たとえば長良川の鮎、北海道の鮭は必ず生まれた川に戻って血まみれになって産卵し、息を引き取る。親バトは猛火の中をヒナ鳥を救うため飛び込んで、火事が終わると多くの焼死した死骸が散乱しています。（本誓寺の火事）

●フレーベルの言葉

日本は昔から「三つ子の魂百まで」の諺があります。世界で最初

に幼稚園を始めたフレーベルは、「人間は五歳までにその人生に必要なすべてを学ぶ」と言いました。最近の日本の犯罪激増を見ると、一目瞭然、原因はおもいやりの心、ありがとうの感謝の心がな、幼い時代の家庭教育の崩壊に原因があります。

私は幼児教育に携わって五十五年「人間は五歳までに」の大切さをこの頃痛感するようになりました。そして考えついたのが新世帯に置くこども教育仏壇です。即ちご先祖の為でなく方向を変えて可



こども教育仏壇



ダンボール箱でお仏壇を作りました

愛い我が子の為のお仏壇です。お腹の中から誕生、幼児期、小学生を対象としたものです。

試験的に仏壇を作って頂きました。次に幼稚園で毎朝の仏参の為、工作で出来た仏壇です。ダンボール箱に外は赤、中は金紙を張り、粘土でののさまを造ってもらいました。昔、親鸞さまが四歳の時夕暮れのお庭のすみで、土の人形を造って合掌された故事にならって造った作品を見て、ハツとしました。その土の仏の顔が、円

空仏の微笑の姿をイメージする程似ているのです。きっと円空様も幼児のようなやさしいお心だったのでしょか。

● 使い方

こども教育仏壇は中央にみ仏様、右の扉を開くと裏側にお釈迦様の伝記の絵、宗祖一代記（絵）等、左側の扉の裏側は家族の写真、単身赴任だったらお父さんの写真を飾って「今、お父さんは遠くでお仕事なの、そのおかげで幸せよ、今度はいつお帰りかな？」と語る。

お仏壇の引き出しには成績表、持ち帰ったどろだんご、蟬のぬけがら、ゾー虫、粘土工作など子供の大変な宝物を大人になるまで大切に保存する。

● 効果

こうしてお仏壇を中心の暖かい家族愛が生まれ思いやりの家庭づくりが育ちます。



お仏壇に納める仏様を粘土で作る

『ここに阿弥陀様がいらつしゃる』（三木恵照編青山書院発行）

という本を読み、本当に子供達の素直に仏の救いを信ずる早さは驚くべきものがある事を痛感しています。私がおのの様を見ていると話しますと、或る日ドッジボールをやっている時、皆が応援していたのに一人しない子が居ると「ののの様が見てるよ！」と促しました。すぐ受け入れるのです。「ののの様が見ている」事が身に付いたならば今、日本で起こっている「人が

見ていなければどんな事をしてもかまわない」としておきる犯罪は皆、無くなってしまおうでしょう。

● お仏壇の大切な役割

お仏壇が一般家庭に置かれるようになったのは「日本書紀」によれば、天武天皇が各家庭に仏像を設置せよと詔せられた事に始まります。戦国時代ポルトガル、スペイン両国の世界制覇防衛の為、徳川幕府は鎖国政策をとりました。寺社奉行を置き各家に仏壇を設け、仏教によって侵略を防ぎ結果的に日本を救うことになりました。

明治に来朝したラファディオ・ハーンは日本の風光と人々の心の美しさを、筆を極めて褒めたたえましたが、敗戦後再び仏壇の無用化が進み、これによって犯罪の激増が起きている事は大変残念です。今こそお仏壇を中心に檀家、門徒の方と力を合わせハーン言う美しい国日本に戻さなければなら

りません。

● 子供の心を育てる宝物はこども教育仏壇

結婚式、誕生日のお祝いにこども教育仏壇を贈って、やさしいよいう子が育つよう念じて下さい。

● 死者が出ないと仏壇を置かない風習が打破できる。

プロ野球や大相撲は昔ファン拡大のため、無料で子供に外野席を開放しました。仏教会・保育協会・仏壇業界などが、死者が出ないと買わない迷信を捨て、小さい子のためにこども教育仏壇を普及したなら、更にその子供が大人になって立派なお仏壇を家に置き、良い家庭を造ることでしょう。

（文責 岐阜県仏教会）

岐阜県仏教会ホームページ

<http://bukkyogifunet/>

グローバル・アピール2009

ーハンセン病に対するステイグマ(社会的烙印)と差別をなくすためにー

全日本仏教会は、人権的見地より、ハンセン病に対する啓発活動を行ってきました。

毎年一月の最後の日曜日は、「世界ハンセン病デー」として、ハンセン病の制圧、正しい啓発を推進する日となっており、一九五四年より続いております。

WHOハンセン病制圧特別大使・日本政府ハンセン病人権啓発大使である日本財団笹川陽平会長がハンセン病と差別の問題について世界に訴える「グローバル・アピール」を一月二十六日にロンドンにて発表したしました。

「グローバル・アピール」は、世界の宗教指導者十七名が賛同の署名をして発表され、松長有慶本代会長も署名いたしました。ここに全文を掲載させていただきます。

二〇〇九年グローバル・アピール

ハンセン病は、人類の歴史とともに存在してきた病気です。この

病気は、身体に障害をもたらすことから、人々に恐れられてきました。

効果的な治療法がないまま、患者たちは社会から排斥されてきました。今は治療薬が存在し、必要な人はだれでも無料で手にいれることができます。

早期に発見され適切な治療を受ければ、痕跡も残さず治癒します。しかし、病気についての誤った認識は根深く存在しています。誤った認識が社会的・経済的差別を永続させるのです。

差別は感情的、心理的な苦しみをもたらします。長い年月にわたって存在してきたステイグマを克服するには、治療薬だけでは十分ではありません。社会が癒しをもたらさねばなりません。

ハンセン病の患者・回復者、そしてその家族には、普通の生活を送る権利があります。病気を理由に人がもつ基本的な権利を否定することは決して許されないので

す。

この社会に存在する、ハンセン病に対するいわれのない恐れ、偏見、社会的差別をなくすために、ともに歩みましょう。

今日が、その歩みの始まりとなるのです。

笹川陽平会長より左記コメントをお寄せ頂きました。

現代においてはハンセン病は治る病気です。早期に治療をすれば身体的障害に悩む心配もありません。薬は世界中で無料で配布されています。一九八〇年代より世界中で約千六百万人が病気から解放されました。新患者は世界で毎年二十五万人程度に激減しました。

しかし、ハンセン病回復者やその家族への偏見に基づく差別は居住、結婚、就職に至るまで日常的であり、大規模な人権問題として存在します。

この度、全日本仏教会のご協力を得て世界に「グローバル・アピール」を発表できましたことは、さまざまな宗教の信者の皆様にハ

ンセン病の正しい知識をお伝えし、差別撤廃へのご協力をお願いするこの上もない機会となりました。

ここに心から感謝の誠を捧げます。引き続き全日本仏教会がハンセン病の制圧と差別の撤廃に深いご理解を賜りますようお願いいたします。



ネパール視察中の
笹川陽平日本財団会長

署名者一覧等の詳細は、左記グローバル・アピールホームページよりご参照下さい。

<http://www.nippon-foundation.or.jp/inter/leprosy/globalappeal.html>

民主党仏教議員連盟 総会に講師を派遣

四月二十一日(火)正午から午後一時まで参議院議員会館第一会議室において「民主党仏教議員連盟」(現在百六名の民主党国会議員を会員に持つ、党内でも大きな議員連盟の一つ)の総会が開催された。

民主党仏教議員連盟より総会時の講師派遣要請が本会にあり、本会より奈良慈徹総務部長他三名が出席した。

総会には国会議員と秘書等を合すると八十六名以上の参加があり、藤谷光信仏教議員連盟事務局長(参議院議員・浄土真宗本願寺派僧侶)の開会、鳩山由紀夫仏教議員連盟代表(衆議院議員・幹事長)の挨拶。

本会から「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止要請」、「適切な宗教教育推進」に向けた取り組みや活動・組織について説明。仏教界へのさらなる理解を得るために仏教懇話会・賛助会員等への入会を促すとともに、国政選挙に向けた全仏推薦に関して説明を行った。



挨拶を行う鳩山由紀夫仏教議員連盟代表

議員連盟とは、政策の課題や推進のために、国会議員同士が自発的に調査研究や意見交換をし、多くの問題や緊急課題、そして政治的決断が必要な案件に対する予算措置や政策提言・議員立法への大きな力となっている。「この時代の」といわれる今、民主党仏教議員連盟は「仏教の教えである慈悲と叡智の光に照らされた、真に寛容と調和の取れた国を目指す政治を実現する」を目的に活動。

本会においても活動をご理解いただく好機をいただく総会となつた。

宗教教育推進委員会開催

四月二十三日(木)十三時から本会会議室にて第六回宗教教育推進委員会を開催した。

今回は、岩田文昭大阪教育大学教育学部社会科教育講座教授を講師として「現代日本と宗教的情操教育」のテーマで講義頂いた。

岩田教授は、自身が教育の実習現場などに赴き教職員や教え子との交流をとおして宗教的情操教育の必要性を強く感じ、大切な命の教育を教育現場で行う価値は充分にあると考えていると述べた。宗教教育については「公教育に宗教が直接介入することはできない」とした上で、伝統仏教界や各宗教界の社会的活動の実践を伝えることが大切である。例えば、ビハーラ等で活動する僧侶が学校等で特別講義や授業をすることが、すでに一部で実施され宗教的情操を育む効果が上がっている。これらは、仏教界が取り組んでいる活動などをより広く社会に提示してい



講義する岩田文昭大阪教育大学教育学部社会科教育講座教授

無料法律 相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上、お来し下さい。

くことが必要であるとも述べた。講義終了後、委員会では今後もこうした各方面の意見や報告を取り入れた上で、全日本仏教会としての意見を集約していく必要がある、との意見が出された。その為には、公開講座・シンポジウムなどの企画や、社会へ向けての啓発活動等を行う事も視野に入れた上で、引き続き本委員会にて検討及び勉強会を続けていくこととなった。

BEP(仏教英語プログラム)参加者感想文

BEP(仏教英語プログラム)参加者より、BEP及び昨年十一月に開催された第二十四回世界仏教徒会議(通訳・ガイド等のボランティア参加)の感想文をお寄せ頂きました。

(原文掲載)

大会を通じ、各大学・全日仏のスタッフの皆様、そして来場された世界の仏教徒の皆様が、みな笑顔と優しい心持ちで接して下さった事が印象的でした。私が、つたない英語ながら、勇気を出して挨拶やご案内が出来たのは、この優しさ笑顔のおかげだと思います。

当初、同じ仏の教えを信ずる者としての連帯感が、その笑顔の源なのだろうと考えていました。しかし、その旨のある方に話したとき、「それは少し違う。集団のメンバーかどうかで優しさや笑顔が決まるのではない。優しい心持ちで人に接することは、人間本来の能力であり、その現れなのだ。」と諭され、私はおのが不明を恥じつつ、その言葉に感銘を受けました。

言葉や生活、信仰の多様な姿に触れた今回の国際会議でしたが、多様性や差異を超えて通じ合おうとする優しさ、そして優しさを表現する行動力を磨くことが、自分の新たな目標となりました。貴重な体験に感謝します。ありがとうございました。

大正大学大学院仏教学研究科修士課程

寺山 賢照

全日本仏教会「賛助会員」入会者一覧

(四月十一日～五月十日)

【団体会員】

株式会社 公益社
株式会社 図書印刷同朋舎
岐阜県葬祭業協同組合

【個人会員】

小坂 憲次(自由民主党 衆議院議員)
鈴木 政二(自由民主党 参議院議員)
田名部匡省(民主党 参議院議員)
池田 行信(浄土真宗本願寺派 宗会議員)
村橋 吉重(浄土真宗本願寺派 宗会議員)
木村 光正(静岡県 本光寺)
櫻田 佳正(京都府)
(順不同・敬称略)

ご入会誠にありがとうございました。引き続き、皆様のご入会をお待ちしております。

本会ホームページから賛助会員要綱・申込書などを閲覧・プリントアウトできます。

<http://www.jbfn.jp>

【全国の寺院にお願い】

個人の入会においては、入会希望者の菩提寺の推薦を頂くことになりました。加盟団体傘下の各寺院の皆様にはご負担をおかけいたしますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

「救援基金」寄付者名

(四月十一日～五月十日)

全昌院(東京都)

(敬称略)

ご支援誠にありがとうございました。

仏教界挙げての人的活動のため、引き続きご協賛をお願い申し上げます。

【郵便振替】

口座番号

00110191704834

口座名義 全日本仏教会救援基金

【銀行振込】

中央三井信託銀行 本店営業部

口座番号(普)0973031

口座名義 財団法人全日本仏教会

機関誌『全仏』

広告募集のお知らせ

機関誌『全仏』は、月間一万部発行され、全日本仏教会加盟団体・各地の寺院の方に購読されております。(年一〇回発行)

広告掲載ご希望の方は、左記全日本仏教会事務局までお問い合わせ下さい。

※掲載内容により、若干の変更を、お願いする場合がございます。ご了承下さい。

全日本仏教会 広報文化部

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

E-mail kouho@jbfn.jp

事務総局録事

四月(十一〜三十日)

- 十三日▼社本会計事務所訪問(神田)
- 十四日▼部落解放同盟中央本部との懇談会出席(六本木)
- 十五日▼BNN人材育成のための教材委員会出席(BNN アーユス事務所)
- 十六日▼仏教情報センター取材(文京区)
- ▼日本財団 斉藤氏来局
- 十七日▼(財)日本宗教連盟 平成二十年年度監査会出席(本会会議室)
- 十八日▼内閣総理大臣主催「桜を見る会」参加(新宿御苑)
- 二十日▼全日本仏教徒会議栃木大会事務局会議出席(宇都宮市 観専寺)
- ▼タイ国王八十歳記念鑄造の仏像贈呈(タイ王国大使館)
- 二十一日▼(財)日本宗教連盟「臓器移植に関する法律の一部を改正する法律案 審査小委員会での意見陳述」傍聴(衆議院議院会館)
- ▼民主党仏教議員連盟総会に本会より講師派遣(参議院議員会館)
- ▼自由民主党組織本部事務局との打合せ(自由民主党本部)
- ▼BNN企画委員会出席(庭野平和財団事務所)
- 二十二日▼(財)日本宗教連盟幹事会出席(神社本庁)
- ▼カザフスタン共和国議長・大使来局
- ▼日蓮宗宗務所長会議出席(日蓮宗宗務院)
- ▼写真家田村氏と打合せ(秦野市)
- 二十三日▼宗教教育推進委員会
- ▼藤谷光信参議院議員秘書来局
- 二十四日▼無料法律相談
- 二十七日▼(財)日本宗教連盟 平成二十一年度第一回理事會・参議會・幹事會・懇親会出席(虎ノ門パストラル)
- ▼局内会議
- ▼WFP(国連世界食糧

五月(一〜十日)

- 三十日▼(株)大和証券及び監査法人来局
- 計画)日本事務所来局
- 一日▼寛永寺 二宮師来局
- 七日▼第二十六回庭野平和賞贈呈式出席(社)日本外国特派員協会
- ▼全日本仏教徒会議栃木大会 実行委員会出席(宇都宮市 生福寺)
- 八日▼BNN第一回運営委員会出席(慈母会館)

哀悼

五條順教師(本会元副会長)
五月十六日遷化 八十二歳
本山葬 六月十八日(木)
金峯山修験本宗管長

祈りの世界 ⑬ タイ

タイ人の大きな誇りの一つは、周辺国が西欧列強に次々植民地化された中でタイ国だけが独立を堅持してきたことである。その理由は歴代王朝の外交センスにもあるが、別の背景として、タイ社会は一貫して仏教を中心とした伝統文化のアイデンティティ、仏教徒としての揺るぎないプライドが強く感じられる。この精神原理こそが、タイ国が西欧列強に対抗する為の大事な手段だったからである。タイ社会を取材していると、生活の中でさまざまな形で仏教が浸透していることに気付かされ、まるで社会全体が仏教的な論理に従いながら展開されているようにすら思えてしまう。ちなみにタイ国の仏教徒は約95%である。

(文章及び写真 田村 仁氏)

美と技を極めたお浄土の世界 はせがわ銀座本店

銀座本店の1階「やすらぎの空間」は光と漆に包まれた空間で、お線香や念珠、ローソクをゆっくりとお選びいただけます。2階「癒しの空間」では洗練された光の空間に金仏壇、唐木や新しいスタイルに適したお仏壇をご紹介します。ご相談コーナーは、霊園・墓石のご相談等、ご供養について承ります。6階には HASEGAWA MUSEUMを併設。我が国至高の美術工芸品をご堪能いただけます。「お仏壇のはせがわ」銀座本店は銀座一丁目・中央通り沿いにご 있습니다。



東京都中央区銀座1-7-6 銀座河合ビル1・2・6階
営業時間 11:00~19:00 不定休

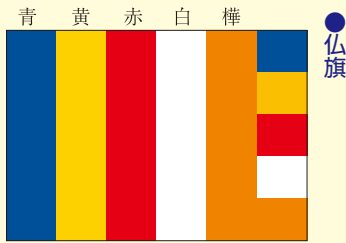
0120-58-7676

△お仏壇のはせがわ 銀座本店



タワラーワデー期の
如来像(8世紀頃)

仏教伝道の旗印として仏旗を掲げましょう



● 仏旗

第一回WFB世界仏教徒会議スリランカ大会（一九五〇年）で「国際仏旗」として採択され、日本では、第二回全日本仏教徒会議永平寺大会（一九五四年）で決定されました。

全日本仏教会選定仏旗

○大	5,000円	(縦 140cm)	横 210cm	テトロン
○中	4,000円	(縦 100cm)	横 150cm	テトロン
○小	2,500円	(縦 70cm)	横 90cm	テトロン
○卓上	2,500円	(高さ 30cm)	テトロン	台座付

本会では、「全仏」誌及びパンフレットを通じ、仏旗の普及に努めておりますが、五色幕に使われている緑・黄・赤・白・紫の五色を用いた旗が依然として多く見受けられます。

本会では、「全日本仏教会選定仏旗」を作成し更なる普及に努めております。

●青色は仏陀の髪の毛の色で、心乱さず力強く生き抜く力「定根」を表します。

●黄色は燦然と輝く仏陀の身体で、豊かな姿で確固とした揺るぎない

この縦と横に重なり合う五色で表される仏陀のお姿と教えが、仏の道を進む私たちに励まして下さっているのです。

また、次のようにも理解されています。

●白色は仏陀の髪の色で、心乱さず力強く生き抜く力「定根」を表します。

●黄色は燦然と輝く仏陀の身体で、豊かな姿で確固とした揺るぎない

●樺色は仏陀の聖なる身体を包む袈裟の色で、あらゆる侮辱や迫害、誘惑などによく耐えて怒らぬ「忍辱」をあらわし、インド、タイ、ビルマ等の僧侶がこの色の袈裟を身につけています。

●赤色は仏陀の情熱、ほとばしる血液の色で、大いなる慈悲の心で人々を救済することが止まることのない働き「精進」を表します。

●白色は仏陀の説法される歯の色で、清純なお心で諸々の悪業や煩惱の苦しみを清める「清浄」を表します。

● 仏旗には次のような意味があります。

性質「金剛」を表します。

WFB本部より浅草寺に仏像贈呈される

WFB（世界仏教徒連盟）本部により、タイ国王の80歳を記念して歴史的な仏教寺院や仏教関連施設に仏像が寄贈されることとなった。（詳細は『全仏』549号参照）

4月10日、第24回世界仏教徒会議日本大会開催への感謝を込めて、浅草寺に仏像が贈呈された。贈呈式は世界大会にて、参加者への抹茶接待が行われた伝法院にて行われ、清水谷孝尚副会長（浅草寺貫首）へ、パン・ワナメッティWFB会長より仏像の贈呈及び、世界大会開催にあたっての謝辞が述べられた。清水谷副会長からは日本大会の思い出が語られ、記念に経本が進呈された。



パン・ワナメッティWFB会長（左から2人目）より、清水谷孝尚副会長（浅草寺貫首、写真左）へ仏像が贈呈される

パン・ワナメッティWFB会長一行は、4月5日から11日にかけて、京都の妙心寺塔頭・霊雲院、奈良の薬師寺及び東大寺、名古屋の日泰寺、鎌倉の大本山光明寺と鎌倉大仏高徳院、本会事務局、浅草寺、孝道教団を訪れ、記念仏像や記念品の寄贈を行い、各加盟団体との交流及び懇親を深めて帰国した。